

小田原市図書施設・機能整備等基本方針(案)に対する市民意見の募集結果について

1 意見募集の概要

政策等の題名	小田原市図書施設・機能整備等基本方針
政策等の案の公表の日	平成26年12月15日(月)
意見提出期間	平成26年12月15日(月)から 平成27年1月13日(火)まで
市民への周知方法	意見募集要項の配布 (市ホームページ、市内公共施設、かもめ図書館、市立図書館、けやき図書室、国府津学習館図書室、尊徳記念館図書室)

2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数(意見提出者数)	98件 (28人)
インターネット	13人
ファクシミリ	8人
郵送	1人
直接持参	6人
無効な意見提出	1人

3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

総括表

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	0
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	12
C	今後の検討のために参考とするもの	82
D	その他(質問、政策等に反映しないものなど)	4

具体的な内容

(1) 2章 図書施設の利用状況に関すること

	意見の内容(要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	住所地別施設利用状況について居住地近隣の施設に集中とあるが、この傾向は交通の利便性等を考えれば変わることはないと思う。運営方針もその地域の年齢構成、その他種々状況を考慮し、地域にあった図書館をつくる必要があるのではないか。	B	本基本方針にのっとり、施設整備に取り組んでまいります。
2	貸出数だけで、利用が多い少ないを評価しているが、本を借りないで図書館を利用している人は、どの位いるのか。	C	貸出数については、図書館の利用状況を表す一つの数値になりますが、それだけにとらわれず、図書館本来の役割や機能を見失わないように、運営してまいります。
3	児童・若年層の利用促進について図書館離れ＝本離れ＝読書離れとは限らず、本当に図書館離れが進んでいるのかわからなかった。 利用実態は少子化が年々進んでいるので、貸出人数・冊数などの“絶対数”が過去より減っても当たり前。年齢別人口に占める利用者の割合や、一人当たりの利用数の経年変化で比べてみないと、“図書館離れが進んでいる”かどうかは何とも言えない。子供が小さいうちは、親のカードと一緒に借りていることも多いだろう。更に「貸出人数・冊数」がトータルでの利用実態を反映しているとも限らない。絵本や児童書は短時間に何冊も読めるので館内での閲覧数も相当数にのぼると思われる。また学生は、館内で複数の本を参照してレポート等を書くが家には持ち帰らない、といったケースもある。若者に限らないが、持ち出し不可の雑誌や新聞を主に読みに来る人もい	C	

	<p>るだろう。“テイクアウト”が多い図書館が良い図書館とは限らない。家とは違った環境でじっくり本を選んだり読んだり、勉強したり出来る、というのも大事な機能だと思う。「館内での閲覧のみの利用状況」も合わせて考えなければ、評価を誤るかもしれない。</p>		
4	<p>時間延長などの効果について、平均的な利用者数には効果が無かったかもしれないが、新規利用が増えているのであれば（たとえば若者の利用が増えたとか）、利用時間変更の際にはその方たちに配慮してほしい。</p>	C	<p>開館時間につきましては、コスト意識を持ちつつ、多くの方に利用しやすい時間を設定できるように、調査、検討をまいります。</p>
5	<p>「開館時間の延長は期待した効果がない」と評価されているが、これは現在の立地での評価であり、駅前図書館は9時～21時、毎日開館（年末年始を除く）を目指して欲しい。</p>	C	
6	<p>若年層の利用者減の課題 若年層は将来の小田原を託す世代であり、三鷹市の事例が述べられているが、一部の事例に限らず広く成功事例、失敗事例を収集し具体的なアクションにつなげていただきたい。</p>	C	<p>次世代を育成することは、図書館の大きな役割であると認識しております。若年層利用の拡大に向け、様々な事例を調査、研究してまいりたいと思います。</p>

(2) 3章-1 各施設・機能の現状と課題、経緯等と対応方針に関すること

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方 （政策案との差異を含む。）
1	<p>市立図書館は週2回のペースで利用している。今回の計画には基本的に賛同する。一日も早い完成を期待している。</p>	B	<p>本基本方針にのっとり、施設整備に取り組んでまいります。</p>
2	<p>星崎記念館の老朽化に伴う駅前と資料保管施設の建設計画は良いと思う。貴重な資料も多いということでそれをきちんと整理、保管すること</p>	B	

	は大事なこと。閲覧自由な図書館と別にして建設することに賛成。資料の閲覧や調べる部屋、貸出なども出来るようにすると更によい。		
3	基本方針案に示された「アクセスしやすい出会う図書館」の構想に大賛成。「駅前」の名に恥じない立地を確保し、早期具体化してほしい。	B	
4	かもめ図書館が中央館になることは、交通の利便性を除き、備わっている設備、機能、建物の広さ等を考えると、ふさわしいと思う。	B	
5	かもめ図書館が出来てからは、司令塔としてその役割を担っていると考えてほぼ満足している。	B	
6	基本方針の 小田原駅前「出会う図書館」 旧保健所跡地 かもめ図書館の 3 館の役割分担については良いと思う。	B	
7	対応方針に利用者の拡大と記述されているが、どの位の利用者を考えているのか。利用数により、施設規模が違う。建設後に混雑して利用できないでは困る。	C	駅前図書施設につきましては、施設計画が具体化する際に、多くの方に使いやすく、親しんでいただけるような施設となるように、検討してまいります。
8	(仮称)駅前図書館は、小田原を軸に生活、活動する者にとって大変魅力がある。多くの方々がその実現を待っていると思う。とかく若年層に目はいくが、ハンディキャップのある方々、ご高齢者にとっても駅前には、利便性が高いと思う。あらゆる方々の利用を想定したほうが良いと思う。職員は、司書、司書教諭等(専門職)の資格を有する者で、高いスペックが要求されるのは必須。市内の小中学校でも司書の配置がされて、図書ボランティアにも有資格	C	

	者がたくさんいる。読書活動推進活動や図書館を情報教育の場として企画、運営、そしてフラッグの立つ素晴らしい環境を整える図書館<施設、資料、そして<ひと>>どれも限られた中で最高のものを作っているほしい。	
9	市立図書館は、間仕切り程度で仕切られた「児童コーナー」ではなく、独立した「児童室」になっていることは、とても重宝した。間仕切り程度では声が筒抜けなので新図書館でも児童室は分離していただきたい。マロニエのような屋内遊び場が併設されているとよい。	C
10	市立図書館は、広い公園内にあり、開放的な屋外空間での休憩や散策も楽しめるところがよい。この環境条件に近いのは、駅前より保健所の跡地の方なので、研究・資料保存施設に専門化するのではなく、一般人がゆっくり静かに読書できる閲覧室もあってくれればよいと思う。	C
11	学校も多い地区なので、勉強できるスペースもとれたら良いと思う。	C
12	小田原駅前という事を生かして、小田原にみえた方のために、観光案内、歴史案内のコーナーを設ける。	C
13	駅近だと電車待ち、バス待ちの時間を使って利用する人があると思うので、文学書等読み物系を充実してはどうか。	C
14	予算があれば、持ち去り防止の為に本にタグをつけた方が良いと思う。	C
15	来館者が自由に使える検索機があると良い。	C
16	番号以外に色別にわかりやすい棚を作ってはどうか。	C

17	市立図書館は規模の割に利用が少ないのは蔵書数や立地条件もさることながらエレベーターや視聴覚資料がないことがネックだと思う。 新築するならば是非、平屋にすとかエレベーターを設置すとか、スロープや多目的トイレなど、バリアフリーな設計をお願いしたい。	C	
18	「出会う図書館」を謳いながら、カフェ等の併存に否定的なコメントが見られるのは理解に苦しむ。多世代が出会い、交流し、共存していく場にするためにも再考を促したい。	C	
19	どんな所に図書館ができるとしても、小さい子ども達、赤ちゃんを連れのお母さんが一緒に絵本を楽しむフロアは絶対必要だと思う。 どんな図書館になるか楽しみ。色々な文化にふれる場が図書館であってほしい。	C	
20	駅前図書館と旧保健所跡地にも施設を建設するとの事であるが、2ヶ所建設するとなると建設費、維持管理費がかかる。どの位の費用を想定しているのか。1ヶ所に統合すべき。	C	各施設の施設計画が具体化する際には、コスト意識を十分に持ちながら、検討してまいります。
21	小田原駅の様なその都市のメイン駅の商業地の一等地に公共施設を安易に設置すると街のブランドを落す可能性があり、相当慎重に検討すべき。図書館は子供をあずける施設などの様に駅近が望ましい施設でもない、なぜ図書館が駅前がよいという事になったのか、再考すべき。	D	公共交通の便の良いところに図書施設を設置することは、より多くの方に利用していただくために必要なことであると考えています。 また、消費者等の誘導や、子育てしやすい都市としてのイメージ向上を期待する効果として、考えています。
22	小田原市も財政的に厳しいと思っている。かもめ図書館が中心的図書館の役割を果たせるのであれば、ツインライブラリー構想にしばらくなく	C	施設計画が具体化する際には、コスト意識を十分に持ちながら、庁内関係部署と調整し、検討してまいります。

	<p>ても良いのでは。駅前図書館は、（現）市立図書館なみの規模ではなくとも、十分に基本方針に掲げられている目的を果たすことは可能と考える。各地域の分館をもっと充実（統廃合の方向ではなく）、予算をかけ、駅前図書館を分館のリーダー的位置付けくらいにするのが良いと思う。青少年の読書教育などは、ハード面でなくソフト面の充実で進めるのがいい。</p>		<p>駅前図書施設で推進していく施策として掲げた、次世代育成につきましては、様々な事例を調査、研究してまいりたいと思います。</p>
23	<p>駅前図書館（仮称）とされているが、駅前温泉などを連想する。せめて「小田原駅前図書館」ならきちんとした名称になる。「分館」についてもふさわしい名称に早急に変更してほしい。</p>	C	<p>今後の検討のために参考とさせていただきます。</p>
24	<p>駅前の好立地に開設するなら、学生、通勤客、地元の人をはじめ、多くの人気が気軽に立ち寄れるよう通路等で駅ビルに直結してほしい。借りやすく、返しやすくしてほしい。</p>	C	<p>駅前図書施設が多くの人にとって、利用しやすい施設となるように、庁内関係部署と調整しながら施設計画に取り組んでまいります。</p>
25	<p>城内の本館に関しては文化財保護の観点から取り壊しの予定となったが、これは時代の趨勢からみてやむを得ないことと思う。</p>	B	<p>市立図書館は閉館することと位置づけましたが、本基本方針にのっとり、施設整備に取り組んでまいります。</p>
26	<p>小田原市が目指す図書館像として「出会う図書館」と表現されていることに異議がある。キャッチフレーズとしては良いが図書館像としては適切ではないと思う。</p> <p>小田原市立図書館は開館当初から地域資料の大切さに着目し、収集・保存に力を入れてきた。星崎氏の寄贈目的により、子どもたちのために、そして、小田原市民に対しても町づくりや人づくりを目指した図書館の活動がされてきた。そういう伝統を</p>	D	<p>小田原市が目指す図書館像「出会う図書館」は、本市図書館協議会で採択されたもので、本市の「子ども読書活動推進計画」にも使用されています。</p>

	ふまえて、これからの小田原市が目指す図書館像を文章化してほしい。	
27	貸出数の増加が市民サービスの最重要課題という考え方は排除していただきたい。	C 貸出数については、図書館の利用状況を表す一つの数値になりますが、それだけにとらわれず、図書館本来の役割や機能を見失わないように、運営してまいります。

(3) 3章-2 駅前図書施設で推進していく施策と期待される効果に関すること

	意見の内容(要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	<p>かもめ図書館のホールは、あまり活用されていないような気がする。市立図書館の研究機能等をかもめに移すのであれば、駅前図書館にはコミュニケーションや娯楽的な要素を取り込んではどうか。</p> <p>武雄市のようなカフェ的なセンス、雰囲気を取り入れ、友人と、家族と連れ立って、本屋のようにリラックスしながら本を選べるスペースにするとか、音楽・映像ライブラリーを増やし、夜にはミニシアター的な機能をもたせ、映像、音楽イベントに民間が利用できるものにするなど。</p> <p>ホールを独立して作るのではなく、図書館としてのスペースが、図書館閉館後に簡易な仕組みでシアター/イベントスペースになる、というもので十分だと思う。</p>	C	<p>持続可能な施設維持のために、コスト意識を持ち続けて、施設整備をする必要があると認識しています。駅前図書施設の施設内容等につきましては、施設計画が具体化する際に検討してまいります。</p>
2	<p>小田原駅の賑わいのほとんどが観光客のように思う。他市民に訴えるイメージの向上でなく、市民の読書環境の充実を考えたら、駐車設備などを十分に備えた郊外に充実した図書館を配置したほうが、広大な市域に</p>	C	<p>アクセスしやすい場所に図書施設を設置し、市民の読書環境の充実を図るとともに、郊外型の図書施設としては、かもめ図書館などの既存施設の機能強化を図ってまいりま</p>

	住む市民にはありがたい。		す。
3	<p>駅前に関しては、駐車場施設の市民活動交流センターを、図書館に転用すべき。</p> <p>広域交流施設(再開発ビル)を建設するとしたら、その立地条件の良さを活かし、収益力のある事業に特化すべきである。</p> <p>収益力のある事業計画を立てられないのなら、広域交流施設の建設自体中止すべき(平成25年「お城通り再開発事業バスターミナル案」参照)。</p> <p>駐車場施設への国庫補助が一括交付金廃止後であっても、一階部分の図書館への転用は不可能ではありません(各省庁には平成20年地方分権改革推進委員会第1次勧告を尊重する事が求められる)。</p>	D	<p>駐車場施設整備事業は、計画が認められ、すでに着手されており、図書施設への転用は困難な状況にあります。</p>
4	<p>「出会う図書館」の理念を基に駅前図書館を新設する計画との事だが、「駅前」の場所と図書館の規模はどう考えるか。</p>	C	<p>駅前図書施設の施設規模等につきましては、施設計画が具体化する際に検討してまいります。</p>
5	<p>駅前とは、具体的にどこの場所を考えているのか。お城通りの再開発用地であれば、再開発用地の具体的な実施内容を示すべき。先に付属施設の駐車場を建設してしまっているが、再開発ビルに入るテナントを明示するのが先。</p>	C	<p>駅前図書施設につきましては、施設計画が具体化する際に、庁内関係部署と調整しながら、検討してまいります。</p>
6	<p>駅前図書館(仮)大賛成、念願である。図書室利用の少ない中・高校にも利用しやすい環境が整えば、利用者は増す。必ずしも本離れしているわけではない。豊かな本の提供、居心地の良い場所の提供、求める情報をすばやく提供できるプロのレファレンス。小田原の新名所にもなるべき“駅前図書館”に大きく期待。</p>	C	<p>駅前図書施設につきましては、施設計画が具体化する際に、多くの方に使いやすく、親しんでいただけるような施設となるように、検討してまいります。</p>

(4) 3章-3 管理運営に関すること

	意見の内容(要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	日本の「メディアドウ」という会社が、アメリカの「Over Drive社」と提携して電子図書館を運営している。この利用まで踏込む決断を期待する。	C	電子書籍等の導入につきましては、メリット・デメリットの調査や研究をし、検討してまいります。
2	将来を見据え、電子書籍の貸し出しにも取り組んでいていただきたい。	C	
3	将来増えてくる電子書籍への対応はするのか。	C	
4	著作権が切れた書籍、古い資料、許可が下りた書籍などをネットで閲覧できる構想はあるのか。	C	
5	ネットでの閲覧を増やせば、書籍の電子化により収納場所が小さくなり処分される本は低減され、弱視の方たちにも大きい活字で読んでもらえ、施設の縮小が可能と考えるが対応はするのか。	C	
6	将来のICT技術(情報通信技術)の発展方向性を含め、図書館施設への有効利用、導入をお願いしたい。たとえば、他の図書館、新聞社、出版社、amazonなどとの情報連携、e-bookなどの取扱い、または情報利用(利用者の利用状況からの本の提案)など。	C	
7	社会のIT化進展に伴い、電子書籍の普及が急速に進む事は必至。将来を見据えて、メディアドウ社の起用を是非取り上げてほしい。	C	
8	紙の本ではなく、タブレットやスマホで読書することが多くなっている、ならば、図書館も電子書籍のダ	C	

	<p>ウンロードサービスを視野に入れるべきかもしれない。</p>		
9	<p>事例に含まれていないが、武雄市のやり方を真似るべきだと思う。</p> <p>同市では「CCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社）と特別の個人情報保護契約をした。利用者が25万人程度から90万人超になった。市の嘱託司書は全員CCCが雇用継続した。Tカードと図書貸出専用カードを併用しているがTカード利用者が93%を占める。」と聞いた。</p>	C	<p>駅前図書施設の施設計画等につきましても、具体化していく際に、様々な他自治体の事例を研究し、庁内関係部署とも調整しながら、検討してまいります。</p>
10	<p>文化庁と教育委員会との連携を模索して欲しい。</p> <p>学校で図書ボランティアをしているが、かもめ図書館はいい手本なので壁の飾りつけ・読み聞かせの本・紙芝居・大型絵本などに関して、相談できる窓口があったらいいと思う。</p>	C	<p>学校図書館との連携の重要性については、認識しております。すでに実施している事業に加え、今後、公共図書館が果たすべき役割について検討してまいります。</p>
11	<p>市立図書館と県立図書館の連携も視野に入れてほしい。市内の高校には保育士や幼稚園教諭を目指す生徒が大勢いるが、紙芝居や絵本の十分な用意が、各校単独では難しい。市内の小中高大のネットワーク構築に市が音頭をとってくれたら小田原市の子育て環境が向上し、素晴らしいものになると思う。</p>	C	
12	<p>学校図書館との連携で、団体貸出の利用促進とあるが、学校司書も複数校勤務では、公共図書館に出向く時間がないのではないかと。県立図書館が県立高校に実施しているように、ネット上で貸出依頼を受け、物流は市図書館が担うような形が現実的ではないかと。子どもを本に向かわせるには、毎日通っている学校での取り</p>	C	

	組みが欠かせない。学校司書の個人努力に頼る現状では、市全体の豊かな読書にはとても発展していかないのではないかと危惧している。		
13	活字離れが叫ばれているが、今、しっかりとした図書館を作っておかないと、将来になってから後悔すると思う。市民にとってかけがえのない資料を後世に残すのは、現在の人の使命だと思う。書店では、手軽に手に入らない本や、高額な本を是非揃えてほしい。	C	読書活動の重要性については、認識しております。これからも図書館が、小田原の文化活動の中心的存在として発展できるように、選書などにも注力し、努力してまいります。
14	学校図書館には司書が配置されるようになったが、さらに新しい方針、方法が必要だと思う。公共図書館の児童コーナーにもぜひ専任の担当者をおいてほしい。	C	子どもに読書の大切さや素晴らしさを伝えることは、次世代育成の観点からも大変重要なことだと認識しています。その充実策につきましては、引き続き検討してまいります。
15	人口減少が続いているが、計画が遂行され維持費が足りなくなった場合の対応は考えているか。	C	持続可能な施設維持のために、コスト意識を持ち続けて、施設整備を検討してまいります。
16	貴重な書籍や資料の電子化は考えているか。	C	一部の資料についてはデジタル化を実施しています。今後は対象となる書籍や資料の拡大に向けて検討してまいります。
17	限られた予算の中で施設利用の拡充を図るにはネットワークサービスの充実が基本となることだと思う。現状はどのような配送システムになっているのかわからないが、予約してから連絡があるまで時間がかかることが少なくない。県内の他施設で「貸出可能」になっていることを確認して予約しても忘れられた頃にお知らせが来るのが当たり前になって	C	現在、市内ネットワーク施設間での配送は毎日行っていますが、タイミングによりお手元に届くまで時間がかかる場合がございます。また、他自治体施設資料については、貸出先の都合により、さらに遅れる場合もありますのでご理解ください。コスト削減の必要性に留意しつつ、今後図書

	<p>いる。 これらの現状は、絶対に改善してほしい。</p>		<p>館サービス全体の見直しについて、検討してまいります。</p>
18	<p>返却できる場所として、業務時間中の支所等も可能としてはどうか。</p>	C	<p>返却場所の最適化については、コスト削減の必要性にも留意しつつ、検討してまいります。</p>
19	<p>「出会う図書館」を実現するためにぜひお願いしたいことは、レファレンスの充実である。図書館専門職を採用し、レファレンス業務のできる職員を増やし、一般行政職の比率を下げる。安易に専門性を委託業務に頼ることは質の低下を招く。専門のレファレンス窓口で職員が常駐し、気軽に相談できる。これこそ本との出会いに満足頂く最高の策と思う。</p>	C	<p>レファレンスサービスの重要性につきましては、十分認識しております。そのために必要な、専門性や継続性の確保に向けて、検討してまいります。</p>
20	<p>レファレンスは民活を取り入れるとされているが、対応できる指定管理者を導入するということか。 小田原市は学芸員採用をしているので、図書館司書採用をしてほしい。</p>	C	
21	<p>窓口、レファレンス等の図書館サービスは委託となっているが 選書はどちらが行うのか。 選書、レファレンス共に図書館の本質的な機能である。委託とした場合、上記について図書館がしっかりと自主性を持つことが大事。</p>	C	
22	<p>「専門職の配置がなく、異動等で知識の蓄積による高度な図書サービスの提供が困難」として、対する【対応・整備方針】に「選書やレファレンス、利用促進事業といった図書サービスを高い水準で提供する上で必要な専門性や継続性を確保する。 そのため、行政職員では取得・蓄積の難しい知識・技能の分野に民間活</p>	C	

力を取り入れる」とある。

たとえ他施設の運営経験があっても、全国ネットワークの民間会社に頼ると、蓄積した知識・人脈は市（行政側）に残らず民間会社に移行してしまい、むしろそこで蓄積したノウハウは他市に流出してしまう。

本当に必要な人材は短期間で他市に異動するなど中核となる人間が入れ替わりがちな傾向にあり、その市に合わせて成長する有機的図書館にはなりにくい傾向にあるようだ。

司書に初めから専門性がある、という前提は幻想で図書館員は、地域の図書館で育っていくものである。住民の要望に合わせた調査・研究能力という<経験知> = 地域の知の集積こそ地域の図書館員の専門性である。

文中で、小田原市の問題点として5年で行政職員が入れ替わるため専門性が育たないことを指摘しているが、5年間、優秀な行政職が真面目に図書館での経験を積めば、むしろ様々な専門性を持つ行政職員に活躍の機会・場所があると考ええる。

例えば農政事務所や法務部門の行政職員が図書館に異動したら、自身の知識と経験を活かして街の課題に合わせた本を蒐集し、図書館で調査・研究技能を取得し街の人々の要望を吸い上げ、今まで出会わなかった地域の人々とも繋がることができる。

そこで得た学びは図書館から元の部署に戻って活かすことができる。

そして図書館にはまた新たな部署（人事部門や財政部門など）から人が来て、新風を吹きこむ...そんな風に真っ当な人事循環システムが機能

	<p>すれば良い図書館になるし、行政の水準も上がり、無駄もなくなる。</p> <p>将来に渡って小田原市を支える行政人材を、図書館という場も使って発見し・育て、他部署と有機的に繋がり、小田原行政を永きにわたって支える真のグローバルな図書館を整備する、という方向性を考えてみてはどうか。</p>	
23	<p>専門職の配備とレファレンス機能の充実を図り蔵書とサービスの向上をもって誇れる図書館に。武雄市の考えは本末転倒であり、海老名も如何なものかと思うが駅前図書館の充実が緊要な課題と思う。武蔵小杉のようになると個人的にはよいと思う。</p> <p>街の書店と公共（行政）とが共に補完し合って地域の文化を守り、発展させていくことが大切と考える。</p>	<p>C</p> <p>コスト削減に注視しつつ、基本方針にのっとり、「出会う図書館」を具現化するようレファレンス機能等を充実させてまいりたいと考えています。</p> <p>書店との関係は、ご意見のとおりと考えていますので、図書館ならではのサービスの向上に努めてまいります。</p>
24	<p>人が生まれてから死ぬまでの間に過ごす文化施設として、一部の人だけに知られている現状から、より多くの市民（全体）へ向けて活用してもらうために、「小田原市の図書館はこういうところ（目指す方向性・目標など）です」というアピールをして欲しい。</p>	<p>C</p> <p>本市図書館の目指す図書館像として、「出会う図書館」を掲げております。この具現化を通じ、多くの市民に活用される図書館作りに取り組んでまいります。</p>
25	<p>現在、かもめ図書館でボランティアをしているが、3つの図書館で有効にボランティア活動が行えるようにできないだろうか。</p>	<p>C</p> <p>よりよい図書館作りのため、市民との協働につきましても、引き続き検討してまいります。</p>

26	図書館は無料貸本屋に終始せず、役割の再認識をして欲しい。図書館があることで街の書店が痛手を被ってはいけないと思う。人気書をどんどん置いて利用者を増やすことだけに目を向けず、本屋さんとの共存、そして互いに高め合ってゆくつき合い方などを模索してほしい。	C	資料選定の重要性については、認識しております。図書館が果たすべき役割を鑑みながら、今後より良いサービスが提供できるように検討してまいります。
27	絵本の貸出しが各館で多いが、利用者として図書館に親しんでいる若い世代が、引き続き図書館を身近に感じられるよう、幅広い本を置いてほしい。	C	
28	20代、30代向けママ雑誌が少なすぎる。若いママも楽しめる雑誌を、かもめ図書館の児童コーナーにも置いてもらいたい。	C	
29	同じ新刊図書が何冊も買われているのは無駄だと思う。予約が多くても最大で2冊もあれば十分だろう。どうしても早く読みたい人は自分で買えばよい。CDも名盤を厳選して、揃えてほしい。	C	
30	人気作品の複本を極力避け幅広い選書をお願いしたい。	C	
31	各年代に相応しい本は学校図書室で手厚くし、市の図書館は就学前までの絵本と大人向けの良書に力を入れる方向でも良いのではないか。	C	
32	かもめ図書館以外にも視聴覚資料を置けば利用者の分散や全体数アップにつながるのではないか。ただし、映像であれば歴史・自然科学や防災資料等、音声であればクラシック・童謡や落語など、公共性の高いもの（長期にわたり価値が続くもの）に対象を絞る必要はあると思う。	C	
33	運営については、武雄市図書館を参	C	駅前図書施設の運営につきま

	考にして、CCCに委託することを考えてほしい。		しては、今後、計画が具体化する際に検討してまいります。
34	市立図書館は星崎氏が、二宮金次郎の報徳思想の根幹をなす推譲の精神で作られた素晴らしい歴史と由緒を持つ建物である。建物の存続は難しくても、そういう先人がいたこと、その精神に基づいて図書館が小田原にでき、多くの人々の文化レベルの向上に資するきっかけとなったということをしっかり伝え守っていく工夫をしてほしい。	B	星崎定五郎氏の精神につきましては、駅前図書施設で、次世代育成の推進を通して、伝えてまいります。
35	図書館専門職の養成をはじめとする人材育成は急務。社会教育の観点からも適切な人員配置や人材開発を心がけてほしい。	C	図書館職員の資質の重要性は、認識しておりますので、今後、どのような方法が最適か検討してまいります。
36	小田原市では専門職を配置していないという前提で施策案を提示されているが、行政職が力を発揮できる図書館を作るためにも、図書館という文化・教育を育てる施設として、継続性・専門性が重要であることを確認し、そうした人材の配置も視野に入れ計画案を作成いただきたい。	C	
37	図書館の計画立案に関しましては、市民懇談会等、市民の意見を集め、熟議する機会を充分にとり、市民にとってよりよい図書館づくりにとりにくんでいただきたい。	C	図書館づくりに多くの方からご意見をいただく方策を考えてまいります。
38	特に予約が入っている本の場合は、返却が遅れている時にはメールなり電話なりで督促していただきたい。1週間以上おくれた場合には、1週間ごとに100円くらいのペナルティを課してもいいのではないか。	C	現在も、督促は行っておりますが、より有効的な督促方法について、検討してまいります。
39	蔵書の配置地図を大きな柱や壁に何か所か掲示してほしい。	C	すでに掲示してありますが案内標識等につきましては、利

		<p>利用者にとって分かりやすいものとなるよう、今後も検討してまいります。</p>
40	<p>かもめ図書館でしか貸出・返却できない視聴覚資料を他館でもできるようにしてほしい。</p>	<p>C 資料の保存性に留意しつつ、今後図書館サービス全体を見直す際に、より活用される視聴覚資料の取扱いについて、検討してまいります。</p>
41	<p>駅前の活性化を考えると、周辺の書店と情報交換する機会があれば、互いに利用者の傾向を知って集客力アップを図れるのではないかと。 図書館と書店は、パイを奪い合うライバルではなく相乗効果でパイ（読書量）自体を増やすものだと思う。 新刊をすぐに図書館に入れるのではなく、刊行後ある程度期間を置いて（3カ月以上とか）評価を見極めてからでもよいのではないかと。トレンドを追うのは書店に任せ、図書館は長く読みつがれる本を選びすぐって置くという方針でも良いかと思う。</p>	<p>C 図書館が果たすべき役割を鑑みながら、今後より良いサービスが提供できるように検討してまいります。</p>
42	<p>魅力ある図書館であるため、仕掛け本や、大判ならではの見応えのある美術書・図鑑など、「紙（や布）でなくては表現できない」魅力のある本でアピールするのも良いだろう。 工作・実験教室などの交流・実体験イベントを開くとか。 県立生命の星地球博物館（入生田）の図書室も、科学好きの子供には（大人にも）魅力的。意見交換やコラボレーションをすると、小・中・高校生くらいの子どもを引きつける工夫が生まれるかもしれない。</p>	<p>C 小田原市が目指す図書館像「出会う図書館」は、「かけがえのない本」、「人の温もり」、「様々な情報」に出会う図書館になること目標としています。今後も、この図書館像に向けて、図書館運営をしてまいります。</p>
43	<p>児童室が独立していることによって、小学生くらいまでの子どもには騒いでも気兼ねがいらず、大人も静</p>	<p>C 本基本方針では、駅前図書施設で推進していく施策として次世代育成を掲げておりま</p>

	かに読書できるメリットがあるが、“大人と子供の間ぐらい”の年代(中・高校生くらい)にとっては、使いづらくなっていることも考えられる。子供と大人の線引きをどこに置くか、また、どこで区分けするにしても、その中間に位置する年代への配慮は課題になると思う。どうすれば使い易いかは、当事者である中間年代に聞いてみるのが一番良いと思う。		す。施設整備にあたってはそうした世代の意見を反映できるよう努めてまいります。
44	漫画や、いわゆるライトノベルなどはデッドストックが増える因になると思う。それよりは、小さいうちから読書習慣を作っておくほうが有効なのではないか。絵本を借りに図書館に行くのは子供のブックスタートであると同時に、親のブック「リスタート」の機会でもある。 絵本コーナーの横に親向けの本(育児書、教育論や、手芸・料理の本、女性向けビジネス本等)のコーナーを配置するなど“親子セット”で使い易い環境を整え、プレママ学級などの時から「ここに来れば育児情報あります!」と宣伝することが、長い目で見れば読書人口・量を増やす手立てであるかもしれない。	C	効果的な選書、配列を工夫してまいります。

(5) 3章-4 施設ごとの整備方針に関すること

	意見の内容(要旨)	区分	市の考え方 (政策案との差異を含む。)
1	駅前の図書館は誰もが自由に立ち寄れる場所になるといいと思う。かもめ図書館ほどの大きさではなくとも閲覧や貸し出し業務などは同様に行けるといい。現在、市立図書館で行	B	本基本方針にのっとり、施設整備に取り組んでまいります。

	われている読み聞かせや季節などに合わせた本の展示、さまざまな年代を対象とした本の充実などにより利用者も増えるのではないか。		
2	駅前図書館が出来ると、通勤、通学客や一般の利用者も増えると思う。年齢層が変わり、専門書の利用も増えるのではないか。図書館の運営方針、設備機能等最善の設備を備え携わる職員も、専門知識、技能を持った職員を配し、相談業務を充実してほしい。通勤、通学の利用者が増えれば、時間的余裕も限られるので、短時間で目的の本が見つけれられるよう、書架の見出しなど一層の工夫が必要と思う。気持ちよく、ほっとする、居心地のよい図書館（これは各図書館に共通）にする。待つ図書館から行動する図書館を合言葉に。	B	
3	いずみ図書コーナーは「貸出人数、冊数の減少が加速度的に速まっている」とのことだが、親子連れの来館は多いはず。絵本の配架位置やカウンターの整理をすることで利用が増えるのではないか。	C	補完して利便性を高める地域施設として、充実に努めてまいります。
4	地域の各図書施設は利用が少ないとはいえ、その地域でのミニマムは確保している。蔵書のローテーション等をもっと頻繁に行い利用者を安定させるべきではないか（少なくともこゆるぎでは感じられない）。	C	
5	「駅前施設に図書館機能導入を」という案は何度も浮上しては具体化していない。蔵書数は少なくとも是非導入を希望する。幅広い年齢層の利用が期待できるし周辺のマップや歴史書を豊富に置くことで観光客も立ち寄れると考える。合わせて気楽な	C	駅前図書施設につきましては、施設計画が具体化する際に、多くの方に使いやすく、親しんでいただけるような施設となるように、検討してまいります。

	カフェや乳幼児の施設も合わせればよりよい図書館が出来ると思う。		
6	駅前、貸出利用には便利だが利用者の多さや閲覧席の少なさから時間のある高齢者や、調べ物をしたい学生には不向きなことが多い。 配置の工夫により狭くてもゆっくりできる閲覧スペースの確保は可能。	C	
7	駅に近い図書館でも、自転車による来場者が多く見込まれるので、事前に利用者数の予測や、周辺の有料・無料の駐輪場の利用状況（既に放置・迷惑駐輪がないか）をリサーチして、適量・適所の駐輪スペースを確保していただきたい。	C	
8	旧保健所跡地に重要な資料を保管するとなっているが、東日本大震災では予想を超える津波が来たことから、この地域に資料を保管するのは安全とはいえないのではないかと。	C	旧保健所跡地に施設を整備することにより、隣接している文学館との一体的な利用ができると考えています。施設計画が具体化する際に、資料を安全に保管する方法について、検討してまいります。
9	歴史的資料の保存等の施設はかもめ図書館2階部分を利用できないか。	C	地域・文学資料の保存等の施設につきましては、その資料の由来や性格を鑑みると同時に、資料保存に適した環境を整える必要があると考えています。施設計画が具体化する際に、各資料のふさわしい保存環境について検討してまいります。
10	文化・生涯学習施設の新設に反対。建物を新設しなくても、資料の収集保管活動は、かもめ図書館でできる。かもめ図書館に専門のスタッフを集約する方が、効率的と考える。建物の新設よりも、図書館と学校図書室との連携強化に力を注ぐべき。	C	地域・文学資料の保存等の施設につきましては、施設計画が具体化する際に、各資料のふさわしい保存環境について検討してまいります。
11	旧保健所跡地に貴重な地域・文学資料等の収集・保存・活用施設を新設するという案には心からほっとし、しっかりした保存施設が早期にできることを望む。市立図書館の老朽化にともない災害などで貴重な資料（小田原市の宝）が散逸してしまっ	B	地域・文学資料の保存等の施設につきましては、施設計画が具体化する際に、各資料のふさわしい保存環境について検討してまいります。

	てはならない。財政面などもありま しょうが、図書館整備においては、 第一にとりかかるべきと考える。ま た近代文学館をフルに活用し、保 存、研究、特に活用について大いに 期待する。		
12	保健所跡地に資料保存活用施設を作 ることに反対。保存のため移転は必 要だが、まず専門家による調査を し、数量、内容、価値を把握するこ と。それらの資料は博物館とも関連 が深いので博物館構想と一体化して 検討する。秦野市は 2011 年にはも う箱モノは作らないと宣言しており、 小田原市の財政も豊かだとは思 えない。再検討願う。	C	地域・文学資料については、 現在、博物館構想と合せて進 めています。 その保存等の施設につきまし ては、施設計画が具体化する 際に、各資料のふさわしい保 存環境について検討してまい ります
13	博物館機能を保健所跡地に持たせる などの工夫も検討していいと思う。	C	
14	保健所跡地は、敷地が広く、周辺環 境は静かで落ち着いているので、 「ゆっくりと読書に専念する」には 良いかもしれない。こちらを大きな 図書館にして、駅前の方を小さな図 書室にするという考えもあるだろ う。しかし、中心街から離れている のは高齢者や子供には使いづらいだ ろうし、海から近いので、万一の津 波の場合大量の資料が流失・破損す るのではないかという心配がある。	C	旧保健所跡地の施設内容等 につきましては、施設計画が具 体化する際に検討してまいり ます。
15	生涯学習施設については各地区にあ る劣化した公民館を改修し利用すれ ば災害時の拠点としても利用でき費 用が抑えられると考える。	D	本基本方針は、図書施設につ いてのものであり、公民館の 改修や災害時の拠点利用につ いては、考えていません。